

# あ さ が お 会

あさがお会は、平成19年に生まれました。南池袋保育園跡地に公園を整備することになり、池袋南地区まちづくりの会が呼びかけて地域の人たちと検討会を組織し、南池ふくろう広場を整備しました。

検討会では、広場にフェンスと扉をつくるべきかどうかで悩みました。この広場は繁華街に近いので、夜間に人がたむろされては近所迷惑になります。一方、防災ひろばとしてはいつでも入れることが必要です。そこで検討会の出した結論は、フェンスと扉は付けるが、カギはかけないという方針です。広場の使い方が目に余るようになったらいつでも夜間にカギがかけられます。広場の管理は区任せにするのではなく、地域で見守ろうということであさがお会が結成され活動が続いています。その甲斐があつてか、これまで広場にカギをかけなくてはならないという事態にはならず9年が過ぎました。会員募集中ですので、是非ご参加ください。



## あさがお会会員募集

会では会員を募集中です。一緒に広場を育てませんか。

参加をご希望の方は作業日に直接おいでください。若い方大歓迎です。

●作業日：毎週火曜日8時30分～

●集 合：南池ふくろう広場  
豊島区南池袋3-17-2

## 知る人ぞ知る文化財…日本女子大「明桂寮」



日本女子大学は、開学当初より寮生活を通じた生活改善のための研究を大切にしてきました。雑司が谷一丁目の寮地区はそのための貴重な場でした。近年では寮の位置づけが変わり、入寮者も減りましたが、建物は残されています。1992年に使用を停止した明桂寮もその一つ。佐藤功一という早稲田大学で教鞭をとる傍ら、大隈記念講堂や日比谷公会堂等を設計をした建築家による作品です。鉄筋コンクリート造で、要所要所に女性の生活空間らしい装飾の施された瀟洒な建築。百年近く前に

建てられたのに、生ごみからメタンガスを発生させ調理に使うなど、最先端の設備も導入されました。雑司が谷の未来遺産としても保存・再生したい建物です。雑司ヶ谷霊園や宣教師館に向かう道沿いにありますが、残念ながら扉に隠れてわずかしか見えません。2016年12月17日に開催するシンポジウムで詳しく様子をご紹介します。お楽しみに。(日本女子大・葉袋奈美子)

### シンポジウム

## 雑司が谷の建築遺産を 生かしたまちづくり(仮)

日時：12月17日(土)  
午後1時から2時半(予定)  
会場：としまセンタースクエア  
(豊島区役所 1階)

## 環5の1について意見を取りまとめ中

都市計画道路 環5の1は、現在地下部分の工事を行っています。まだしばらく工事は続きますが、地上の道路について、検討を進める時期になりました。

道路については、計画線や幅員などは決まっています。しかし、交差点をどうするのか、どこに横断歩道をつくるのか、自転車と歩行者はどのように仕切るのか、道路の緑化はどうするのかなど、これから検討することもたくさんあります。

例えば交差点。既存の道路と環5の1をどのように接続させるかについては、地域住民の利便性に直結す

る問題です。児童の通学路としても環5の1の横断が出てきますし、商店街の連続性も大切です。地区内に2つある都電の電停をどうするかという問題もあります。近年増えてきた来街者が安心して歩ける環境づくりも大切にしていきたいところです。

これら環5の1についての様々な課題について、まちづくりの会では話し合いをしています。その内容については、会で意見を取りまとめ、東京都に提案する予定です。

まちづくりニュース  
2016・10  
通算80号

# ぞうしがや

<http://zoshigaya.org>

●企画／発行  
雑司が谷・南池袋  
まちづくりの会  
●事務局・連絡先  
豊島区地域まちづくり課  
事業第1グループ  
03-3981-0489

**注目**  
まちづくりの  
最新情報は  
ホームページ

## 雑司が谷 鬼子母神堂 国の重要文化財に指定



雑司が谷のシンボルの一つでもある鬼子母神堂が国の重要文化財に指定されました。未来遺産登録に引き続き、地域にとってうれしいニュースが続きました。

鬼子母神堂は、300年以上にわたって信仰の対象であると共に、お会式が地域や世代間の交流を取り持ち、コミュニティの中心でもありました。今、改めて、地域の財産としてその価値が認められました。

## 高田小 跡地は いま

高田小学校跡地の公園づくりは昨年後半、大きく揺れていました。昨年9月、豊島区から、「区が進めるリノベーションまちづくりの一環として、校舎を耐震補強した上で活用し、地域の活性化を図るため検討させてほしい」と提案されたのです。

この提案に対して旧高田小跡地公園計画検討会では、さまざまな異論があったものの区に検討してもらおうということになりました。校舎が残れば地域になくなった救援センターを復活させることができ、また地域にとって役立つ施設になるという期待もあったからです。その後、区によって建物の調査が行われ、現在の校舎の耐震性が思った以上に悪く、補強しても十分な耐力を確保できないことがわかりました。そのため校舎を残す案はなくなりました。

しかし、検討会では、区からの提案にあった「民間活力を入れて施設の維持管理を行う」という提案について、引き続き検討しています。公園整備事業は、今年度から設計作業に入ります。来年度には校舎を解体し、平成32年春の開園を目指して検討を進めていきます。

# 夜のまち点検

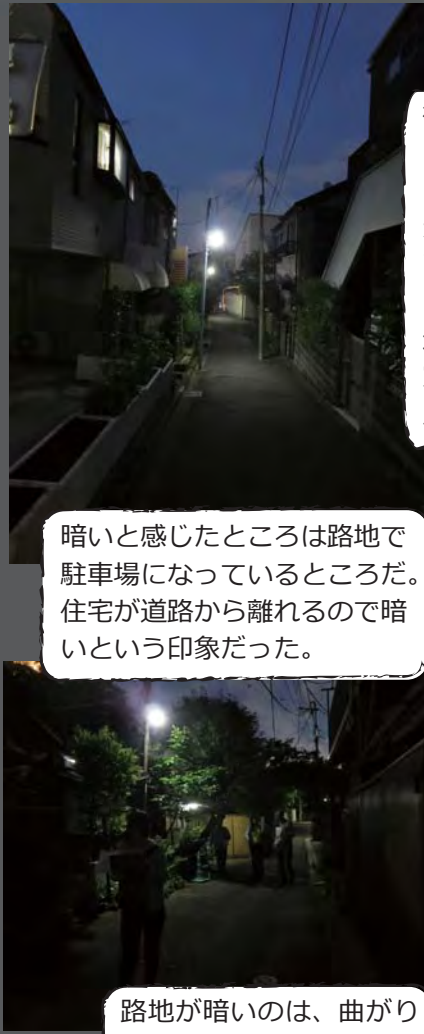
まちづくりの会  
夜の明るさを調査

雑司が谷のまちは、夜は暗くて怖い、安心して歩けないという声を聞くことがあります。一方、この落ち着きが雑司が谷らしいという人もいます。

実際はどうなのでしょう。雑司が谷・南池袋まちづくりの会では、夜のまちの様子を確認するために「夜のまち点検」を行いました。まちづくりの会から11名、日本女子大から3名が参加して、5つのグループに分かれて、照度計を片手に地区内を1時間ほど歩きました。歩いたコースとところどころで計測したまちの明るさを示したのが3ページの図です。

弦巻通りや鬼子母神表参道、外周部の幹線道路はかなり明るさがあります。住宅地の道路に入っても街灯が一定間隔にあるので、照度が低くてもそれほど暗くは感じない道路があります。しかし、曲がり角に街灯がないところや、緑が繁っているところでは、歩いている人の顔が見えないほど暗いところもあります。

道路に面した家の壁が街灯に照らされていたり、家の外灯が壁を照らしているところは街路灯の照度は同じでも、道路が明るく感じられます。何よりも家の灯りが道路に届いていると安心感があります。照度だけでは測れない、まちのつくり方がありそうです。そんなことを確認できた「夜のまち点検」でした。



街灯の真下は明るい  
が中間は暗い。直下にだけ光が落ちるタイプの街灯がある  
そうだ。しかし通してみると視覚的には明るく見える。

暗いと感じたところは路地で  
駐車場になっているところだ。  
住宅が道路から離れるので暗い  
という印象だった。

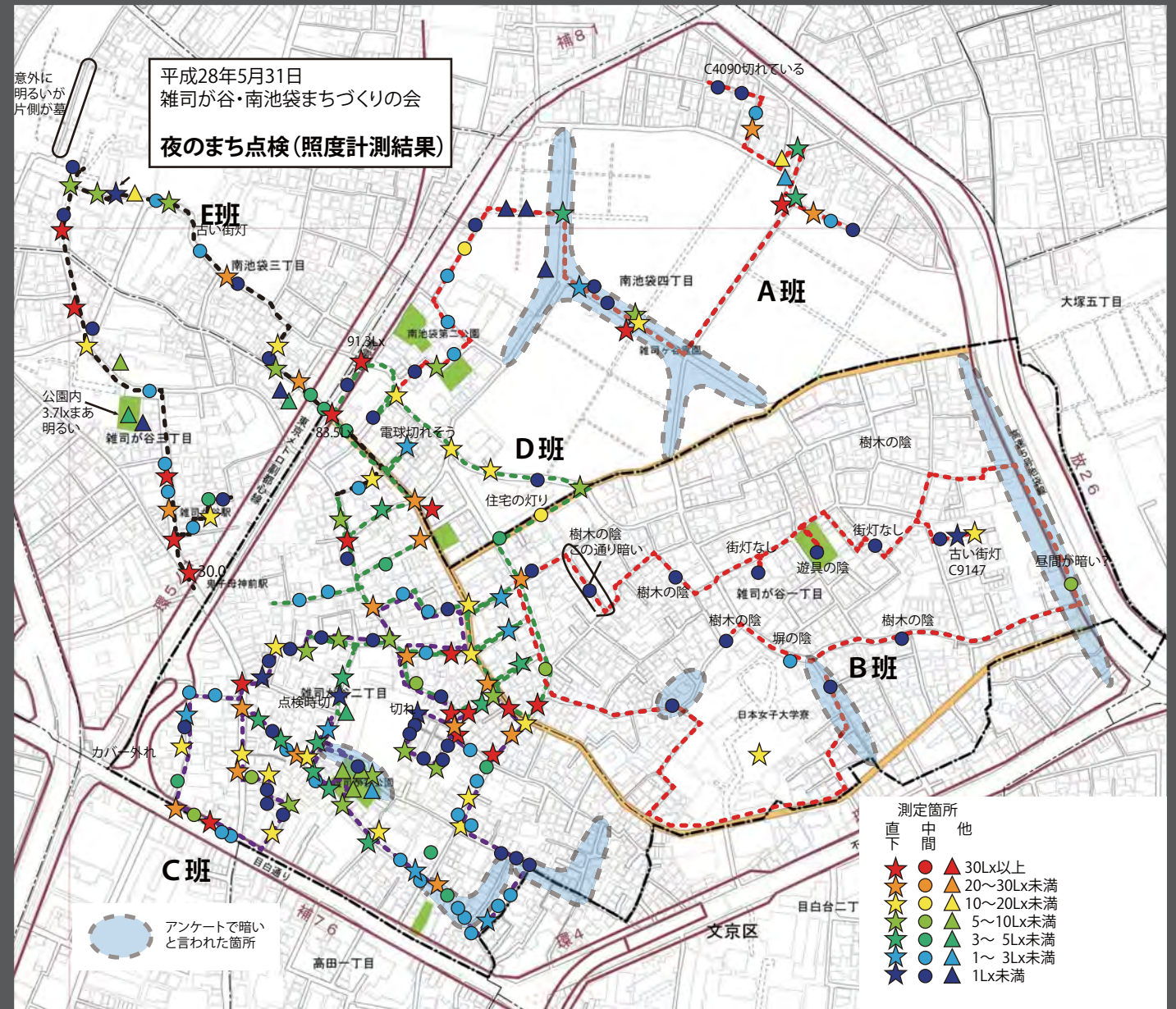
路地に入ると急に暗くなる。  
街灯が木などで隠れている  
となお暗い。

路地が暗いのは、曲がり角に  
街灯がない部分だ。そこは改善点  
だと思う。

周りに灯りがあるとずいぶん違う。  
住宅で玄関の灯りを付けていない家が多い。  
これは考えてほしい。

家の明かりがもれているところは安心感があるが、空き家や留守の家では明かりがついていないので不安を感じる。道は明るい、それ以外にも暗い場所がある。

街灯のところに白い壁があったり、道路の正面に明るい外壁があったり、住宅の外灯が壁を照らすようなものだと、照度以上に明るく感じる。



表参道や弦巻通りの商店街、お店の前は明るかった。



## 豊島区景観計画

豊島区では、「豊島区都市づくりビジョン」の中に、都市の価値を高めるための景観の創出を方針にかけられています。平成28年3月には景観法に基づいて「豊島区景観計画」を策定しました。計画では区内の12の地域ごとに景観まちづくりの視点を定め、地域ごとに特長のある景観づくりを目指しています。景観に影響を及ぼす一定の建築行為については事前協議と届出が必要となります。詳しくは都市整備部都市計画課にお問合せください。

豊島区都市計画課 電話 03-4566-2633

